

# スーパー武将が 浜松に集結。

いまなお輝き続ける、幾重にも重なる武将の歴史。



今川家



武田家



豊臣家



徳川家

今川義元、武田信玄、豊臣秀吉、徳川家康。戦国期、全国に名をはせた、そうそうたるスーパー武将たちが、ここ浜松の地を奪い合った歴史は紛れもない事実。城跡を訪ねると、当時の攻防の様子や、その時代の武将たちの熱い想いが伝わってくる…。

年号	西暦	主な出来事
永禄3年	1560	桶狭間の戦い
永禄4年	1561	川中島の戦い
永禄5年	1562	織田信長と松平元康による清洲同盟
永禄6年	1563	三河国二向一揆 松平元康、家康に改名
永禄7年	1564	
永禄8年	1565	
永禄9年	1566	松平家康、徳川に改姓
永禄10年	1567	信長、稲葉山城を陥落させ岐阜城と改め入城
永禄11年	1568	武田軍により今川館落城
永禄12年	1569	徳川軍により掛川城落城。今川氏滅亡
元亀元年	1570	家康、浜松城築城開始
元亀2年	1571	織田軍、比叡山延暦寺を焼き討ち
元亀3年	1572	三方ヶ原の戦い
天正元年	1573	信長、足利義昭を追放す。室町幕府滅亡
天正2年	1574	家康、第1次犬居城攻略戦(失敗)、高天神城陥落
天正3年	1575	長篠の戦い 信長、家康、武田を破る 家康、二俣城奪還
天正4年	1576	家康、第2次犬居城攻略戦。信長、安土城築城
天正5年	1577	信長、安土城下を築市とする
天正6年	1578	毛利輝元、尼子勝久を滅ぼす
天正7年	1579	家康の長男信康、二俣城にて自刃
天正8年	1580	
天正9年	1581	家康、高天神城奪還
天正10年	1582	本能寺の変 武田氏滅亡。家康、五力国を領有
天正11年	1583	賤ヶ岳の戦い 秀吉、柴田勝家を破る
天正12年	1584	家康、秀吉、小牧・長久手の戦い
天正13年	1585	
天正14年	1586	家康、居城を駿府城に移す
天正15年	1587	秀吉、キリスト教宣教師追放
天正16年	1588	
天正17年	1589	
天正18年	1590	小田原の陣 秀吉、天下統一 北条氏滅亡
天正19年	1591	
文禄元年	1592	文禄の役(秀吉、朝鮮出兵)
文禄2年	1593	
文禄3年	1594	伏見城(桃山)へ、秀吉移る
文禄4年	1595	
慶長元年	1596	秀吉、明の国書の無礼を怒り、明使を追つ
慶長2年	1597	
慶長3年	1598	秀吉、死す
慶長4年	1599	前田利家・五奉行ら、家康の専横を詰責
慶長5年	1600	関ヶ原の戦い
慶長6年	1601	家康、東海道に伝馬制度を設ける
慶長7年	1602	家康、東本願寺を創建させる
慶長8年	1603	家康、征夷大將軍となり、江戸幕府を開く
慶長9年	1604	
慶長10年	1605	家康、征夷大將軍を辞し、秀忠、將軍に任命される
慶長11年	1606	江戸城本丸御殿なる
慶長12年	1607	家康、駿府へ移る
慶長13年	1608	
慶長14年	1609	
慶長15年	1610	名古屋城築城、姫路城改修
慶長16年	1611	
慶長17年	1612	
慶長18年	1613	
慶長19年	1614	大阪 冬の陣
元和元年	1615	大阪 夏の陣 豊臣氏滅亡
元和2年	1616	家康、死す



あっぱれじゃ。  
家康くん  
出世大名  
©浜松市

徳川	豊臣	徳川	徳川	今川	浜松城*
徳川	豊臣	徳川	武田	徳川	二俣城
徳川	豊臣	徳川	徳川	今川	鳥羽山城
徳川	豊臣	徳川	徳川	今川	犬居城
徳川	豊臣	徳川	武田	徳川	高根城
徳川	豊臣	徳川	武田	徳川	高根城

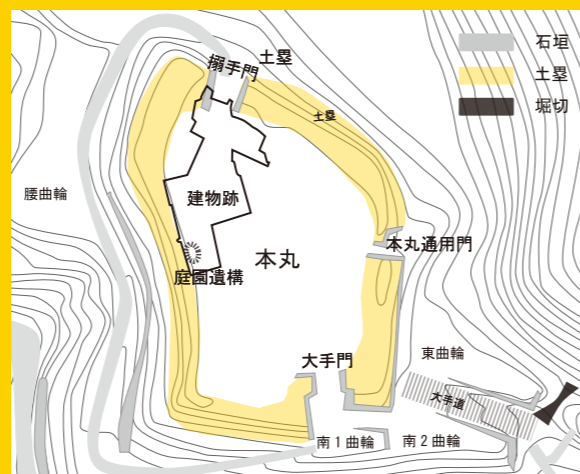
\*浜松城築城前の引馬城含む

## 城跡巡り実践ノウハウ

例えば、急峻な山頂に築かれた山城の雰囲気を感じたい人は犬居城(天竜区春野町)。戦国期の頑丈な防備の復元を見たい人は高根城(天竜区水窪町)。前述した3つの転換期を含めた歴史ダイナミズムを感じたい人は、二俣城と鳥羽山城(天竜区二俣町)がお薦め。二俣城、鳥羽山城は今川氏によって整備されたものが、その後、徳川氏、武田氏の攻防の中で、その都度、堀や土塁などが強化されていった。さらに豊臣氏の重臣である堀尾吉晴の代になって、石垣や天守(二俣城)が築かれた。現在鳥羽山城を訪れると、広い大手道や本丸の庭園などに目を引かれるが、これは第三の転換期に造られたもの。それ以前は、これらの構築物がなかったことを想像しながら見学してみよう。

また、ある程度時代が進んだ城には、大手門という表口と、搦手門という裏口が必ず配置されている。それらがどこにあるかをチェックすると、その城がどこを厳重に守り、どこへ逃げ道を作ろうとしていたのかを理解することができる。

この他、三岳城(北区引佐町)や光明城(天竜区山東)などは頂上からの展望を楽しみたい人に人気。興味に合わせて、奥深い浜松の城跡をゆっくり訪ねてみては。



鳥羽山城俯瞰図



鳥羽山城の大手道や本丸の庭園は、迎賓館的な施設として造られていたと思われる。幅およそ6mの大手道は、静岡県内最大級の規模。

## 3つの転換期の象徴的な城



### 第一段階

尾根続きの地形を巧みに利用。視界を確保するため樹木を伐採し、小屋掛け程度の建物を建てたとされる。写真は堀之内山城(天竜区春野町)。



### 第二段階

山城は、勢力争いに翻弄されながら、支配者が変わるとともに土塁や櫓、虎口などが造られ、防備が強化された。写真は高根城(天竜区水窪町)。



### 第三段階～石垣

石垣や瓦ぶきの建物が登場するのは豊臣秀吉が台頭し始めてから。豪華絢爛な天守閣などは、軍事施設であるとともに権力の象徴であった。写真は二俣城の石垣(天竜区二俣町)。

## 城跡に秘められた 3つの転換期

現在私たちが目にする城跡は、決して1つの時代の姿ではなく、中世から戦国、江戸と長い歴史の中でさまざまな変遷をたどっている。具体的にその特徴がつかみやすい、3つの転換期を紹介しよう。

まず第一段階は戦国時代初期。この遠州地域では、地元の領主たちの多くが、今川氏の家臣としての支配力を固めるため、拠点となる城を築いた。当時は、険しい地形を活かした山城がメインで、小さな小屋や柵を設置する程度のものであったと思われる。

続いて第二段階は、今川氏の勢力

力が弱まるとともに、徳川家康、武田信玄が遠江侵攻をはじめた頃。両者が勢力を争い、独自の手法を凝らしながら、城の改修に力を入れた。尾根筋を遮断する堀切や、通路を区画する土塁など、これまでの山城の備えを、さらに強固にした様子が見え始める。

そして最も変化を認識できる第三段階が、豊臣秀吉が台頭し始めた頃。石垣や瓦ぶきの建物が登場し、天守を持つ城郭も現れた。豊臣氏は戦の拠点としての城というより、権力を誇示する象徴としての城のきらびやかさを増していった。浜松の城跡には、以上3つの転換期の特徴が複合的に織り込まれた姿を見ることが出来る。